

## クラミジア感染症

- クラミジアは細菌に分類され、非淋菌性尿道炎、子宮頸管炎、咽頭炎などの性感染症(STD: sexually transmitted disease)の原因となります
- 男性では尿道炎が最も多くみられ、尿道炎の約半数がクラミジアに起因すると言われています。
- 女性の場合は子宮頸管炎が最も多くみられますが、時に子宮付属器炎(卵管などの炎症)、骨盤腹膜炎、肝周囲炎の原因となることもあります。  
また咽頭炎など、口腔内の炎症も増加傾向にあります。
- 症状として漿液性(さらっとした)帯下、腹膜炎を発症した場合は強い腹痛や発熱が生じることもありますが、多くは無症状の無症候性感染とされています。
- 無症候性の場合、感染に気づかず、子宮頸管炎から子宮付属器炎に上行性感染が進展、卵管内癒着や卵管周囲癒着を来すこともあります。それらは不妊症や異所性妊娠(子宮外妊娠)の原因となります。
- また妊娠中に感染し、無治療で経過した場合は新生児のクラミジア感染症(クラミジア結膜炎や肺炎)の原因となります。
- クラミジアが指摘された場合、抗生剤で治療を行いません。
- 用いる抗生剤にはアジスロマイシン(単回内服)、レボフロキサシン(1日1回、1週間内服)などがあります。
- パートナーの男性にも同様の治療が必要となります。